

## 2 林業部門

### 1) 林業を担う経営体（林業経営体）

本県の林業経営体は**340**経営体となっており、保有林規模別では、集約化が進み**30ha**以上の経営体が総数の**41%**を占め、前回調査より**18**ポイント高くなっている。また、組織形態別では、法人化していない経営体が**79%**を占めている。

#### 保有山林規模別 林業経営体数

	3ha未満	3ha～5ha	5ha～10ha	10ha～20ha	20ha～30ha	30ha～50ha	50ha～100ha	100ha以上	保有山林無し	合計
林業経営体数	4	36	62	58	30	26	37	77	10	340
割合(%)	1.2	10.6	18.2	17.1	8.8	7.6	10.9	22.6	2.9	100.0

(2020年農林業センサス)

#### 組織形態別 林業経営体数

	森林組合	その他法人	地方公共団体 ・財産区	法人化 していない	株式会社	合計
林業経営体数	21	9	12	271	27	340
割合(%)	6.2	2.6	3.5	79.7	7.9	100.0

(2020年農林業センサス等)

#### 林業経営体数

令和2年	全国	和歌山		全国順位			
		順位	シェア(%)	1位	2位	3位	
林業経営体数	34,001	340	35	1.0	北海道	宮崎	岩手

(2020年農林業センサス)

## 2) 森林資源・林業生産基盤

地域別・森林面積（令和5年4月1日現在）

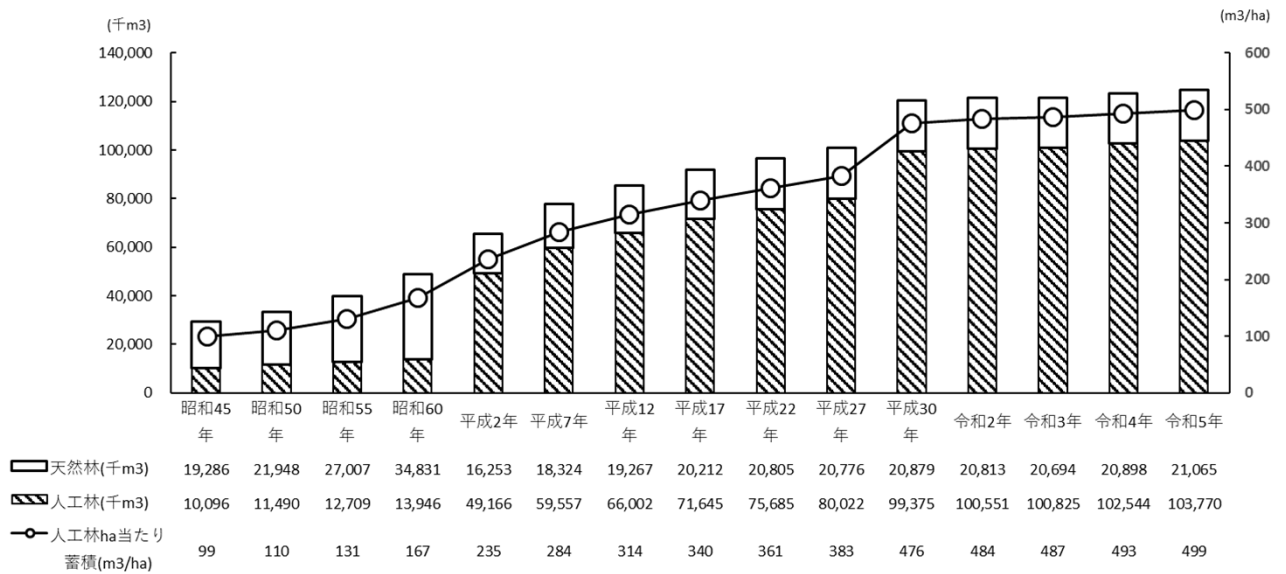
県の森林面積361,082haのうち、国有林は4.7%、民有林は95.3%です。県の森林面積の57.6%が人工林です。

	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	全県
森林面積合計(ha)	20,104	12,044	33,314	33,232	51,595	126,819	83,974	361,082
国有林(ha)	436	273	2,219	695	1,907	8,991	2,580	17,101
民有林(ha)	19,668	11,771	31,095	32,537	49,688	117,828	81,394	343,981
人工林(ha)	7,882	5,674	22,780	21,738	24,461	78,348	47,261	208,144
天然林(ha)								129,205
その他(ha)								6,632

(県林業振興課業務資料)

森林資源（民有林蓄積）の推移（地域森林計画対象森林：343,336ha）

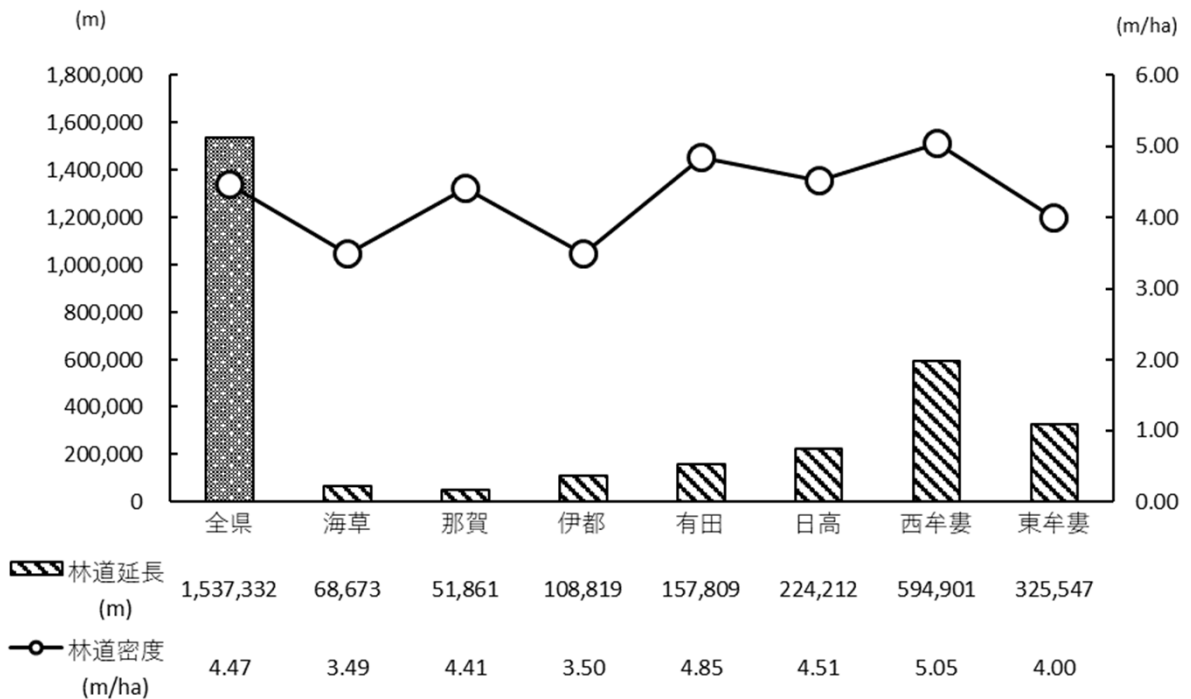
戦後植林された森林資源が成熟している。



※平成29年に人工林（スギ・ヒノキ）に関する林分材積表等各種資料の改訂を行ったため、人工林材積が大幅に変化している。（県林業振興課業務資料）

地域別民有林林道延長及び林道密度（令和5年3月31日現在）

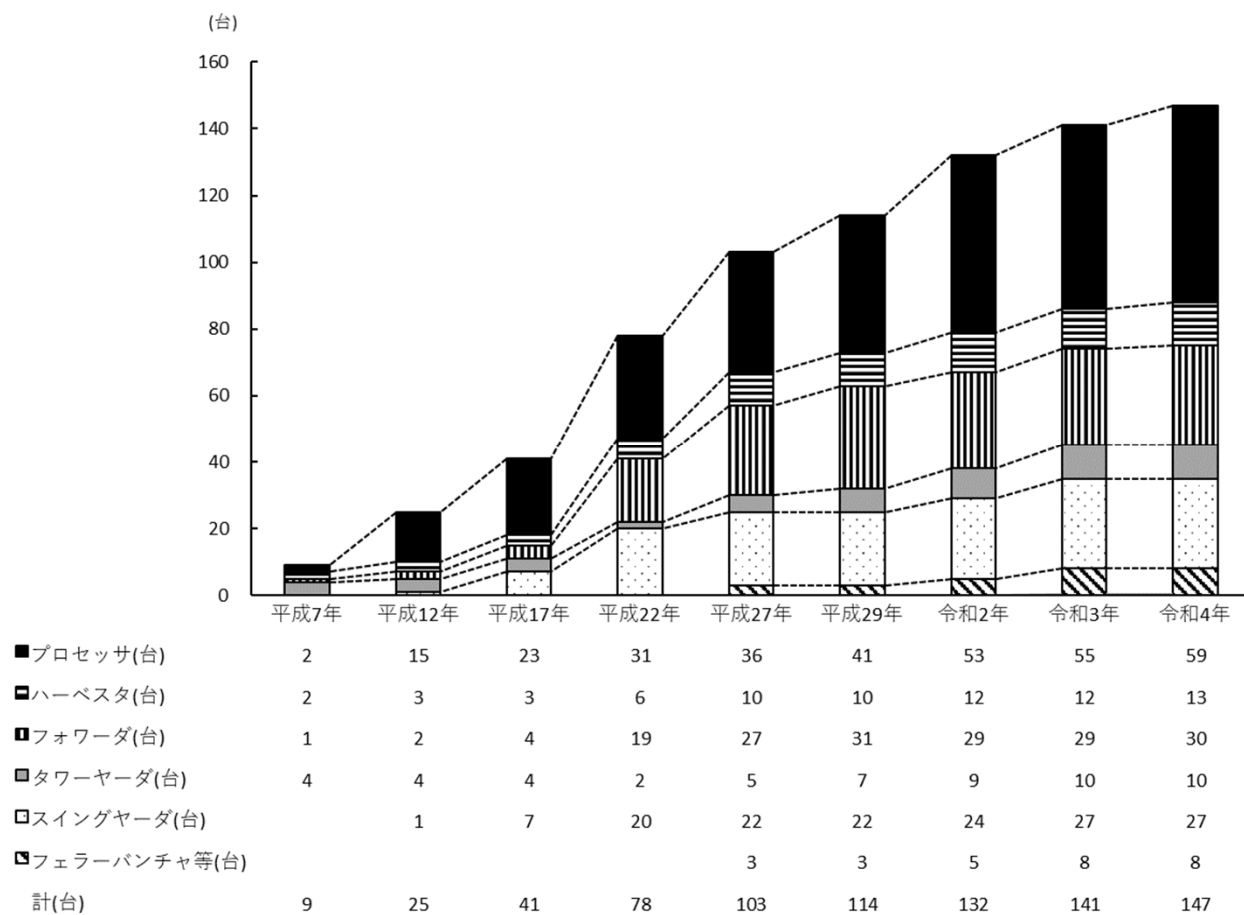
生産コストの縮減をはかるため、林道密度を高める必要がある。



（県林業振興課業務資料 令和5年3月31日現在）

## 高機能林業機械保有台数（令和5年3月31日現在）

低コスト林業を推進するため、高性能林業機械の導入を進めている。

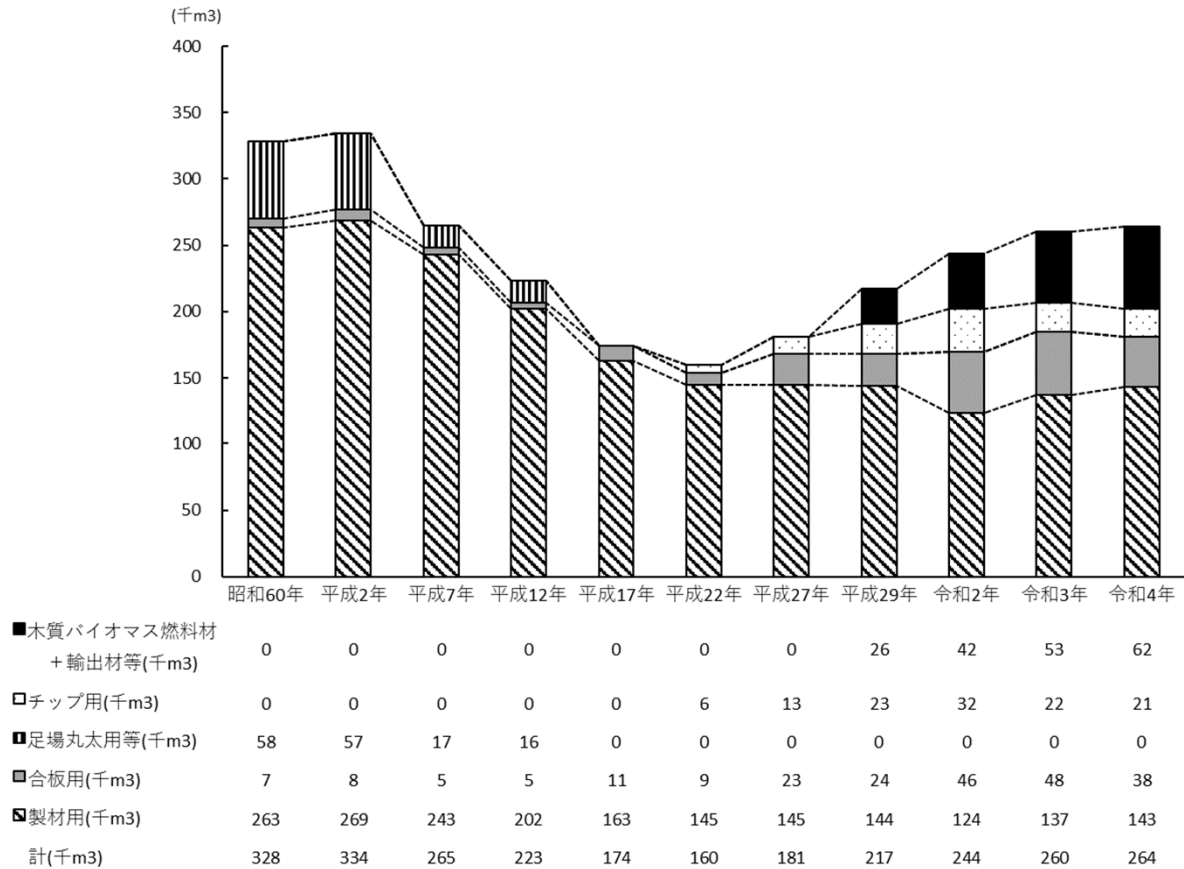


(県林業振興課業務資料)

### 3) 林業生産

令和4年は、主伐による木材生産が増加したことにより前年からやや増加傾向にある。合板用材は工場の受け入れ制限により減少傾向。

#### 用途別素材生産量の推移



※平成28年から木質バイオマス燃料材+輸出材等を集計に追加しました。

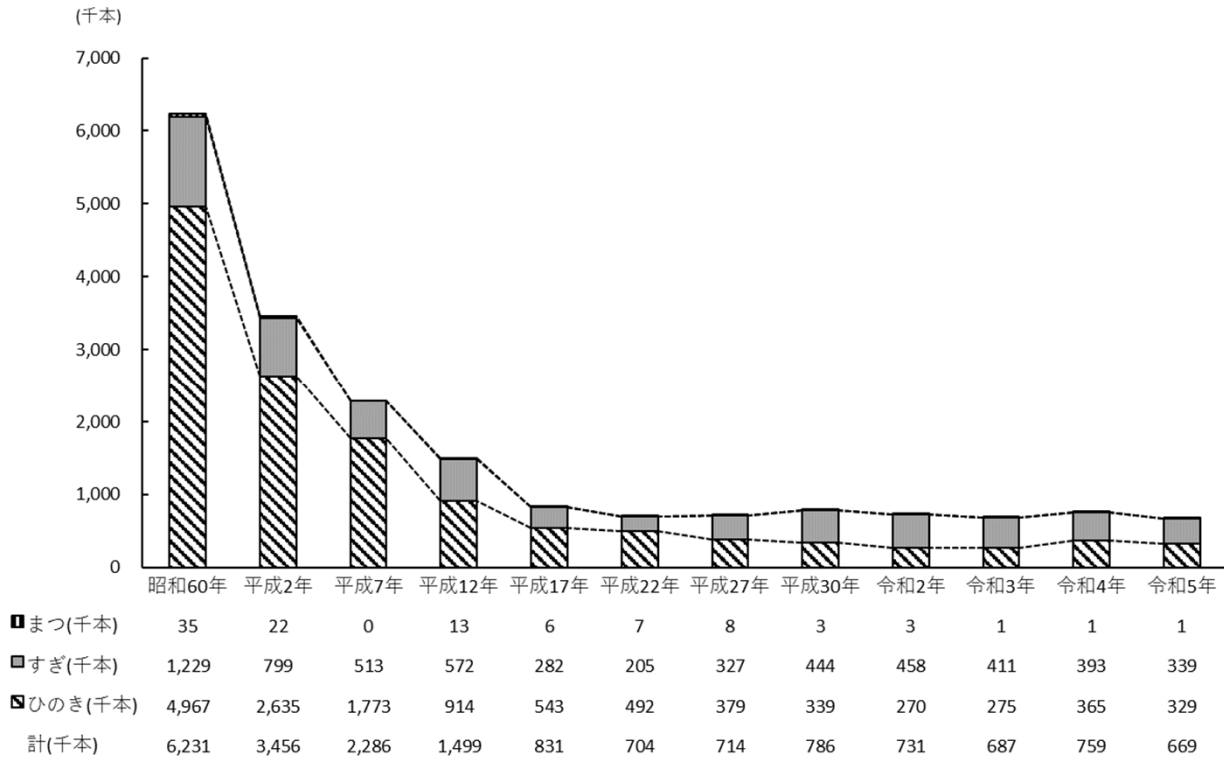
(木材需給報告書、木質バイオマスエネルギー利用動向調査、県林業振興課業務資料)

#### 樹種別素材生産量 (令和4年)

	針葉樹			広葉樹	合計
	計	すぎ	ひのき		
素材生産量(千m <sup>3</sup> )	257	149	108	7	264
割合(%)	97.3	58.0	42.0	2.7	100.0

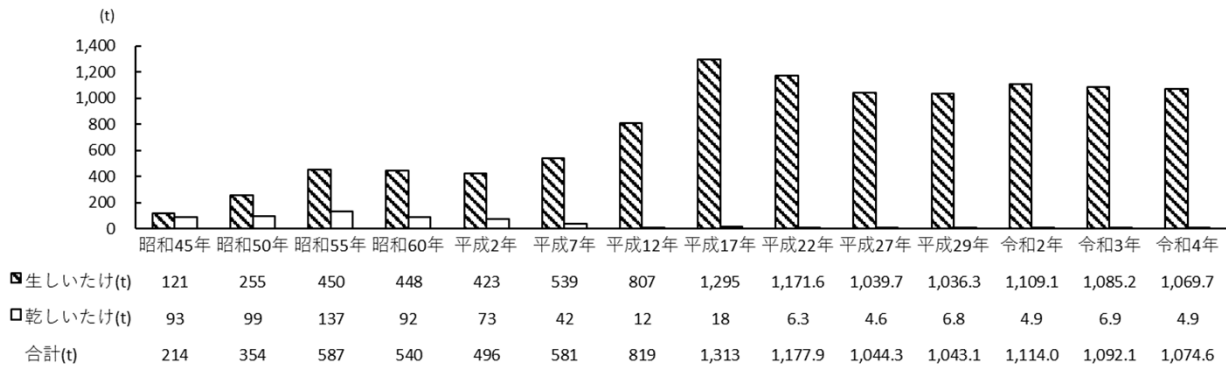
(県林業振興課業務資料)

# 山林用種苗生産本数の推移



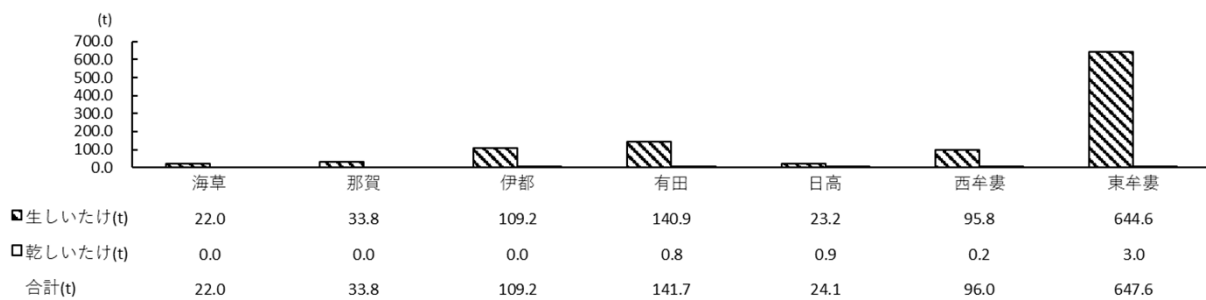
(県森林整備課業務資料)

## しいたけ生産量の推移

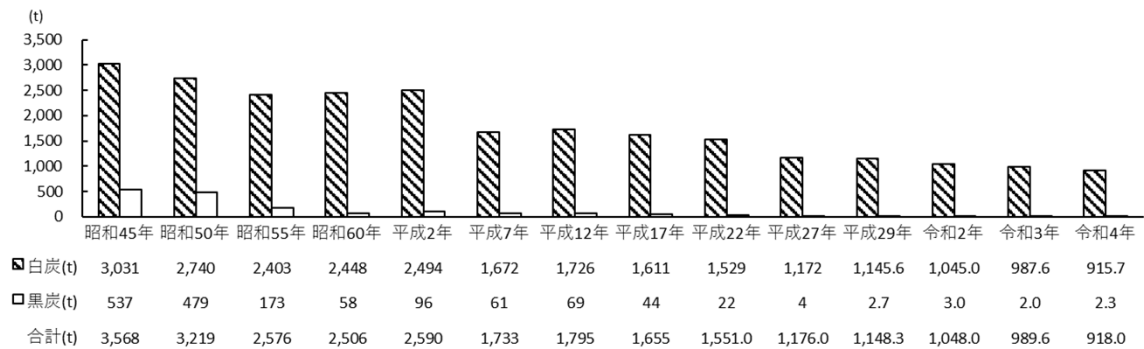


(昭和45年～平成17年は四捨五入で整数にしている。)

## 地域別・しいたけ生産量 (令和4年)

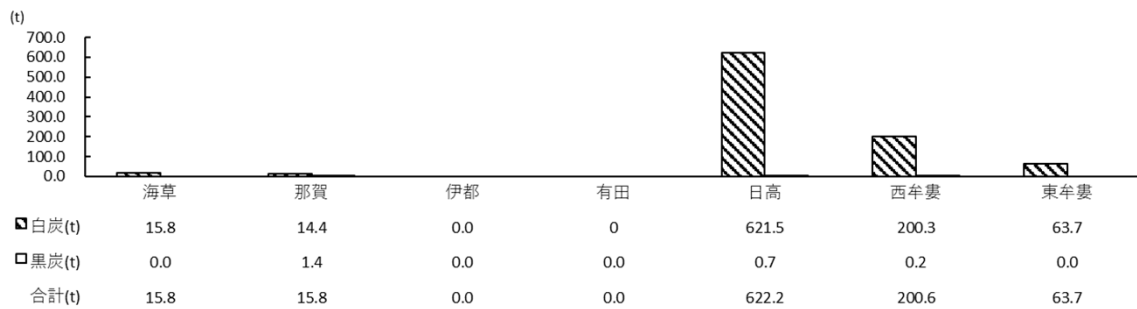


## 木炭生産量の推移



(昭和45年～平成27年は四捨五入で整数にしている。)

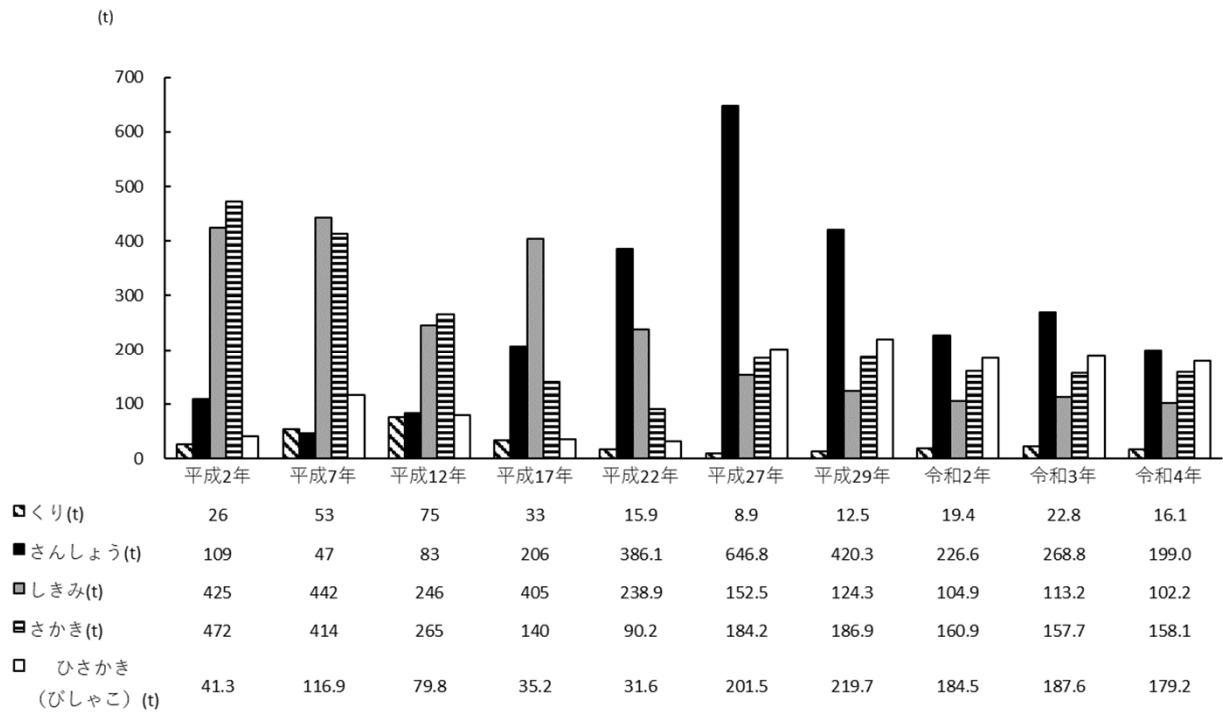
## 地域別・木炭生産量 (令和4年)



(県林業振興課業務資料)

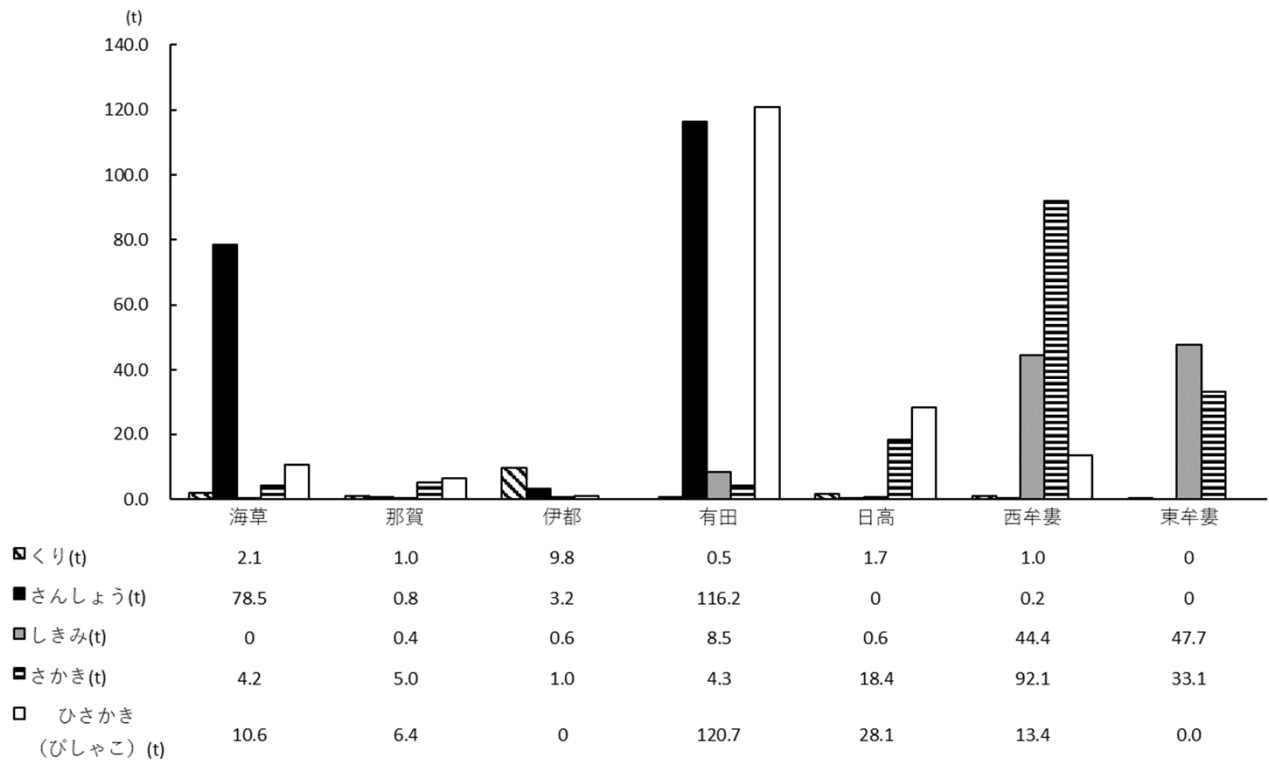
木材による収入が減少する中、副収入源であった特用林産物の収入に占める割合が増加してきた。

## その他の特用林産物生産量の推移



(ひさかき以外の平成2年～平成17年は四捨五入で整数にしている。)

## 地域別・その他の特用林産物生産量（令和4年）



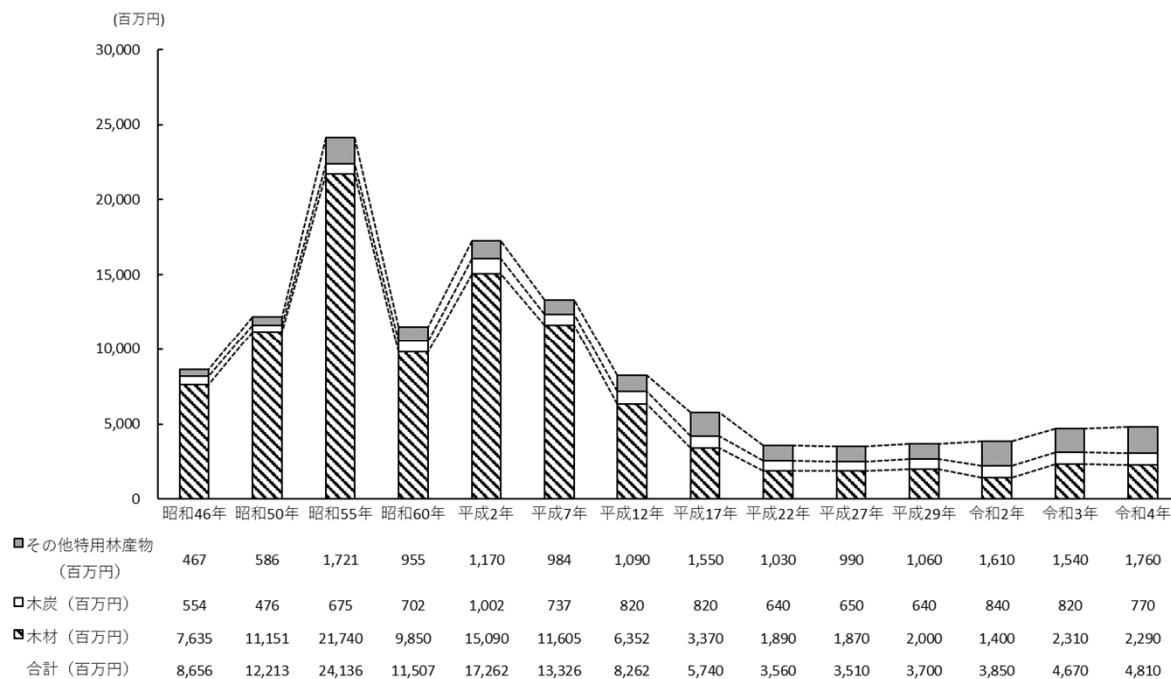
(県林業振興課業務資料)



## 4) 林業産出額

素材価格がピークであった昭和55年から減少後、平成27年以降からは増加傾向にある。令和4年は昨年と比較して、1.5億円増加している。

### 林業産出額の推移



(林業産出額)

### 林業産出額

令和4年	全国	和歌山			全国順位		
	産出額 (千万円)	産出額 (千万円)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
総計	50,998	481	30	0.9	長野	北海道	新潟
木材生産	29,282	229	28	0.8	北海道	宮崎	岩手
特用林産物	21,715	253	23	1.2	長野	新潟	福岡

(林業産出額)